

「日中植林・植樹国際連帯事業」日中環境法律交流代表団

参加者の感想（抜粋）

○手配が細やかで行き届き、行程は合理的だった。環境保護の理念が先進的で、確実に実行されている。日本人の自主的な環境を守るという意識や行動は印象深い。

1. 参考にするべき点：中国は早急に立法による電子・自動車・プラスチックの各製品のリサイクル事業を推進し、環境と資源の保護を強化すべきだ。また、ごみ分別の立法を加速させ、国民の省資源・環境保護に対する意識向上と習慣づけを行うべきだ。この分野で、日本は学ぶに値し、両国で協力できることは多い。

2. また、今回、印象深かったことは、自治体の社会統治における役割だ。北九州での環境整備や四大公害の処理など、重大な社会的事件において自治体が大きな役割を果たした。一方、中国の社会における自治組織の成熟度は低く、この点は大いに強化すべきだ。

3. 高齢化問題。今回の日本の旅では、各訪問先で60歳以上の高齢者が働いているのを見かけたが、同様の仕事は中国では若者がしている。しかし、十分に注意すべき点は、子どもを産みたいと考えている中国の若者は減り続け、決して多くない。中国も日本ほどではないが既に高齢化社会に入っており、政府が幼稚園や託児所の完備など、保障や対策を講じなければ、すぐに高齢化社会の多くの問題に直面するだろう。

○良い点：日程に廃棄物リサイクル事業の工場見学が組み込まれ、多くの法律に関する見学や交流が組み込まれていた。

改善すべき点：視察先の滞在時間が短く、日本側との交流があまり深くできなかった。

日本で生活した経験があり、澄んだ空気や清潔な道路は印象深かったが、これまでなぜ日本がこのような環境であるのかについて、深く考えたことがなかった。今回の植樹・視察・交流活動を通じて、日本に対する新しい認識が得られ、よりトータルにその理由と日本の長年に亘る努力が理解できた。

まず、歴史的には東京大学法学部セミナーでも指摘されたように、日本もかつて深刻な公害を経験し（四大公害事件）、環境と生態を取り戻すため、裁判官、検察官、弁護士、学者を含む法曹界が献身的な努力をした。環境問題は全ての住民に関わり、一人一人の努力が必要だ。法曹界の他にも、個人や企業が責任を負わなければならない。企業は積極的に環境にやさしい材料やエネルギーの使用・開発に努め、未来を見据え、目先の利益にこだわってはならない。一般市民も環境保護の意識を持ち、資源を浪費すべきではない。日本では、箸を売っている店をよく見かけた。日本人の多くが自分の箸（マイ箸）を携帯しており、これは日本人の環境保護意識の高さを示すもので、このような習慣は学び参考にする必要があると思う。

○植樹や環境・防災分野の視察・交流を通じ、日本の環境整備、資源リサイクル、クリーンエネルギー利用についての認識を得た。特に日本のごみ分別、資源リサイクルにおける経験や成果は学ぶに値する。

1. 環境分野の視察を通じ、日本も歴史上、四大公害事件という国民の健康を害する深刻な環境汚染事件を経験したことを知った。また、中国は経済発展の過程で、まだこのような教訓を汲み取っていないと感じ、大気・水・土壌が汚染され、心が痛む。また、日本の今の美しい環境を見て、努力により、人と環境の協調発展は実現可能だと確信した。日本を含む他国の環境技術分野の先進的経験を学ぶとともに、更に重要なのは、国民に環境保護の重要性に対する認識を普及し、深めることだ。環境問題は一国一代の問題ではなく、全人類と後世に亘る大きな問題だ。

2. 北九州のペットボトルリサイクル工場の視察は大変印象深かった。

(1) 日本では、1本のペットボトルを非常に細かく分別回収している。本体、ラベル、キャップは別々に回収し、用途が異なる。

(2) 廃棄物の回収はメーカー、消費者及び政府がともに努力し、特に国民一人一人が実生活で環境保護に貢献できる。

(3) 壁に展示された資料で日本と欧米のごみ収集車を比較すると、1997年当時、日本は欧米に遅れていたが、10年後には欧米を追い抜き、短期間で目覚ましい発展を成し遂げたことは注目に値する。

○日本の温かく行き届いた日程の手配に大変感動したとともに、活動中に見かけた日本の環境・防災分野における努力と成果に驚いた。活動は非常に意義があり、多くの収穫を得られた。今後もこのような活動で双方向の視察・交流が適切に強化され、両国の理解が更に深まるよう願っている。

7日間の日本における植樹活動、環境・防災分野の視察が終わろうとしているが、感慨深いものがある。今回が初めての日本での交流・学習ではないが、日本の風土や人情を深く理解でき、社会的・文化的経験は初めてだった。日本の社会は秩序正しく、社会統治の効果は中国より遥かに進んでいる。日本人の仕事に向かう態度は真面目で、穏やかに礼儀正しく他人に接しているのを見るたび、反省させられた。最近、両国の関係発展において紆余曲折があったが、民間交流では、例えば秩序のある社会管理、強い自己管理意識、慎み深く真面目に業務に向かう態度、文明的生活の雰囲気など、日本には中国が学ぶに値するところが大変多い。

帰国後は、滞在中の見聞、特に、日本の環境保護、公害統治、植林・植樹、排出規制などの分野の歴史、経験、方法、成果について、周りの知人・友人と積極的に共有するつもりだ。日本もかつて深刻な環境問題に悩んだ国だ。しかし、日本は社会団体、政府、学校、メディア、弁護士などが共に協力し、よりよく環境汚染問題を解決し、以前は黒い煙に包まれ青空も見えず、真っ黒な汚染水が排出されていた工業団地は、再び青空や緑の山、きれいな水を取り戻した。これは、環境保護の大々的な提唱と、美しい中国の建設において、大変参考になる。

今後、中日両国が環境保護、汚染管理などの分野の交流や業務提携を更に拡大し、美しく持続可能な緑の地球建設のため、共に奮闘するよう願う。